「未来を見据えた病弱教育に向けて」

校長　　佐　橋　正　智

「社会参加」、特別支援教育に限らず当たり前のように使われてきた言葉が、病弱の児童生徒、とりわけ進行性の病気等で人生の大半を病院で生活する児童生徒にとって、今ほど身近で具体的な目標となっている時期はないのではないでしょうか。

平成 30・31 年度(令和元年度)の２ヵ年で進めて参りました研究が、ひとまず区切りをつけることができました。研究テーマは「病弱教育における将来をより良く生きようとする児童生徒の育成～学ぶ喜びから未来への喜びにつなげる教育活動を通して～」、スケールの大きい設定となっていますが、時代の流れに即応した研究と言え、児童生徒の未来を見据えた教育のあり方を深めるため、全教職員が一丸となって取り組むことができたと自負しております。

本研究では、未来を見据えた教育のあり方を考える指針として、経済産業省から出ている「社会人基礎力」を活用しました。ともすれば、「病棟生活においても自分らしく生きられる」「自分の意思を表明できる」「有意義な時間を過ごせるような余暇を見つける」などのように、病院生活をどのように豊かに過ごすかという視点にウェートがあったものを、未来を見つめる視点として「社会人としての自立という視点」を中心に転換させました。近年の科学技術の急速な発展と活用の広がりにより、私ども病弱教育校においても、未来を見据えた社会参加へのアプローチがより現実的なものとなってきました。

教育の果たすべき役割は、ますます大きく多様化しています。新学習指導要領においても、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念があります。教育課程と社会のつながりを大切にすべきとされています。技術や活用の仕方の修得は大切なことですが、それだけではよりよい社会を創ることにはつながりません。日本や世界の人々に、何を伝えたいのか、なぜ伝えようと思ったのか、どのように伝えるのかなどの、内面の成長と発信力・表現力の成長を欠かすことはできません。それは、科学技術が今ほど発展していない昔から続く教育における不変の目標とも言えるでしょう。

時流に遅れず、不変の教育を忘れることなく、実践を念頭に研究を進めてきました。まだまだ力量不足の小さな一歩にしか過ぎませんが、一歩は一歩です。一歩目があるから次へ進むことができます。病弱教育の未来を語る教職員集団へ進化していく姿を、今後も追い続けたいと思います。

令和２年３月

挨拶

目次

第Ⅰ章　研究概要　01
１　研究主題・副題
「病弱教育における将来をより良く生きようとする児童生徒の育成
～学ぶ喜びから未来への喜びにつなげる教育活動を通して～」
２　今回の研究に至る背景
３　研究の目指すところ
４　研究内容及び手立て
５　評価
６　校内研究推進計画

第Ⅱ章　学校が目指すものの明確化（平成 30 年度研究）　07
１　新学習指導要領の理解
２　児童生徒の将来や実態の把握・理解
３　中間確認
４　目指すものの検討と共有
５　１年目（平成 30 年度）の成果と課題

資料１「新学習指導要領補足資料」　19
資料２「筋ジスあるある座談会」（ＤＭＤ疾患者の特性理解資料及び座談会記録）　27
資料３「教科等の目指す力・姿の整理／八養版「社会人基礎力」との結び付き」　30
資料４「「志」及び八養版「社会人基礎力」を育む教育課程構成図」　42
資料５　資料４詳細版　42

第Ⅲ章　「できる」を目指した授業実践研究（令和元（平成 31）年度研究）　43
１　実践研究準備：教育課程への導入
２　「できる」を目指した授業の実践研究
３　成果と課題（研究の評価と改善に向けて）

資料６「キャリア教育全体計画」　55
資料７「教室掲示用「志」＆八養版「社会人基礎力」デザイン」　56
資料８「全学部のグランドデザイン」　57
資料９「授業計画フレームシート（原版）」①【教科】②【自立活動】③【合わせた指導】　60
資料１０「授業計画フレームシート・学習指導案①（小・音楽）」　66
資料１１「授業計画フレームシート・学習指導案②（高・数学）」　73

第Ⅳ章　研究の考察とまとめ　81
１　研究の成果
２　仮説の検証
３　今後の課題と展望

おわりに